

授業概要

科目名	聴力検査Ⅱ						授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2	単位	配当学年時期		1年	後期
【授業の目的・ねらい】 聴覚の発達とその障害の多様性について習得する。											
【実務者経験】 大阪府立身体障害者福祉センター病院にて、言語聴覚士として耳鼻咽喉科領域リハビリの従事経験。											
【授業全体の内容の概要】 聴力検査を通して得られる測定データを用いて、聴覚障害の種類や疾患について考察するための基本的な知識と技術を身につける。 臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 聴覚障害の基礎とその障害への対応について理解する。											
回数	講義内容									準備物(教材)	
1	オリエンテーション									プリント	
2	聴覚経路とその障害について理解できる。(1)									プリント	
3	聴覚経路とその障害について理解できる。(2)									プリント	
4	伝音難聴と感音難聴について理解できる。(1)									プリント	
5	伝音難聴と感音難聴について理解できる。(2)									プリント	
6	伝音難聴と感音難聴について理解できる。(3)									プリント	
7	聴覚の発達について理解できる。(1)									プリント	
8	聴覚の発達について理解できる。(2)									プリント	
9	聴覚障害とコミュニケーション・モダリティについて理解できる。(1)									プリント	
10	聴覚障害とコミュニケーション・モダリティについて理解できる。(2)									プリント	
11	補聴器と人工内耳について理解できる。(1)									プリント	
12	補聴器と人工内耳について理解できる。(2)									プリント	
13	聴覚障害へのアプローチについて理解できる。(1)									プリント	
14	聴覚障害へのアプローチについて理解できる。(2)									プリント	
15	まとめ										
	定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 『聴力検査の実際第4版』											
【準備学習・時間外学習】 復習による基礎知識の整理が必要です。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。											